

「就労支援部会」中間報告について

1 報告事項

(1) 第15回就労支援部会（平成28年6月24日開催）

ア 第26回刈谷市障害者自立支援協議会における就労支援部会関係の報告について

刈谷市障害者自立支援協議会（平成28年5月20日開催）にて報告した就労支援部会での昨年度の検討事項と結果及び今年度の検討事項を確認した。

イ 障害者雇用セミナーの開催について

平成30年度から法定雇用率の算定に加わる精神障害者の雇用に関する内容としたセミナーを開催することとした。開催日時や事例発表の方法、広報手段など具体的なセミナーの内容を検討した。

(ア) そう、うつ、統合失調症といった精神疾患だけを持っている人よりも発達障害との重複者の相談の方が多くなってきているため、理解促進の講義の中で発達障害のことも説明していく。

(イ) セミナーでは支援機関をうまく利用することをもっとPRしていく。

(ウ) 企業が事例発表を行った後、支援機関を交えてパネルディスカッションを行う。

ウ 就労支援と相談支援の連携体制の構築について

相互のつながりがあることで、本人の特性に合った就職が増加すると考えられるとともに離職の低下が見込めるので、各支援機関が情報共有できるような連携体制の方法として、連絡会の開催について検討した。

(ア) 頻度にもよるが、初めは定例会のような形で行うのが良い。

(イ) 各事業所が持つ制度、数字等を情報共有できる場として活用していく。

(2) 第16回就労支援部会（平成28年8月10日開催）

ア セミナーの詳細について

講義内容や当日の動きの他、セミナー後の企業とのつながりを持つ方法などを検討した。

(ア) 広報は、市からのダイレクトメールに加え、各事業所のHPやSNSにも掲載することで、より広く周知できる。

(イ) セミナー後の参加企業へのアプローチは、個人ではなくチームを組んで手分けして連絡するほうが良い。

(ウ) 参加企業へのアプローチは早ければ早いほど良いため、可能であれば1週間以内に行うべきである。

イ 就労支援と相談支援の連携体制の構築について

連絡会の構成員、実施方法などの具体的な開催方法を検討した。

(ア) 連絡会の開催形態は目的次第だが、構成員に就労継続支援A型やB型を組み込むことで、刈谷市全体の支援力の底上げが見込める。

(イ) 意見を言いやすい連絡会になると良い。

(ウ) テーマを設けることで、そのテーマに詳しい担当者や制度を勉強したい人が参加でき、より関係も広げることができる。

(3) 第17回就労支援部会「障害者雇用セミナー」(平成28年9月30日開催)

精神障害に関する理解促進の講義の後にそれをふまえた事例発表を行ったことで理解がしやすく、支援機関をうまく利用すると良いということも講義の中で十分にPRできた。グループトークも終了時間を過ぎても話が盛り上がり、内容の濃いセミナーが実施できた。

ア セミナー内容

チラシのとおり(6ページ)

イ 参加者数

21社29名

ウ アンケート結果

| | 精神（発達）障害の理解促進 | 事例発表 | 支援機関の紹介 | グループトーク | セミナー全体 | 悩みが解消されたか |
|--------------|---|--------|---------|---------|--------|-----------|
| 内容の理解度 | 平均 4.2 | 平均 4.4 | 平均 4.4 | 平均 4.3 | 平均 4.5 | 平均 4.0 |
| 障害者雇用に向けた有益性 | 平均 4.3 | 平均 4.4 | 平均 4.4 | 平均 4.2 | 平均 4.5 | |
| 自由記述 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまで知らなかった精神障害の方の特性を知ることができた。 ・支援機関と積極的に交流する必要があると感じた。 ・全体的に分かりやすく、テンポが良かった。 ・今後の障害者雇用にあたり、支援機関の有益性が分かり、雇用を進めるヒントが得られた。 | | | | | |

2 総括及び検討課題

(1) 障害者雇用セミナーの開催について

全体的な構成内容や広報手段などを工夫したことにより、昨年度より参加者数が増加したため、より多くの企業と支援機関につながりができると見込める。今後は、セミナーをきっかけとした関係作りが続いていくような方法を検討していく。

(2) 就労支援と相談支援の連携体制の構築について

連絡会を定例会として開催し、その構成員や目的などについて検討することができた。効果的な連絡会となるよう、今後は具体的に共有したい情報等実施内容を検討し、今年度中の開催を目指す。